発生概要

◆令和８年10月末　電話でお金詐欺（特殊詐欺）被害認知件数・被害額 前年同期比（暫定値）

区　分		令和7年中		令和7年10月末		令和8年10月末		前年同期比			
		件数	被害額(円)	件数	被害額(円)	件数	被害額(円)	件数	増減率	被害額(円)	増減率
電話でお金詐欺(特殊詐欺)合計		**454**	**3,849,463,344** **(25,150,000)**	**368**	**3,143,647,878** **(20,459,000)**	**478**	**3,301,320,157** **(54,903,000)**	**110**	**29.9%**	**157,672,279** **(34,444,000)**	**5.0%** **(168.4%)**
内訳	ニセ警察詐欺	120	1,242,896,351 (8,357,000)	95	926,286,351 (8,357,000)	101	1,132,492,758 (20,000,000)	6	6.3%	206,206,407 (11,643,000)	22.3% (139.3%)
	オレオレ詐欺	15	86,000,000 (1,000,000)	14	84,200,000 (1,000,000)	102	218,751,173 (7,467,000)	88	628.6%	134,551,173 (6,467,000)	159.8% (646.7%)
	預貯金詐欺	7	13,145,000 (13,145,000)	6	8,454,000 (8,454,000)	6	4,537,000 (4,537,000)	0	0.0%	-3,917,000 (-3,917,000)	-46.3% (-46.3%)
	キャッシュカード詐欺盗	5	2,648,000 (2,648,000)	5	2,648,000 (2,648,000)	17	22,899,000 (22,899,000)	12	240.0%	20,251,000 (20,251,000)	764.8% (764.8%)
	架空料金請求詐欺	76	241,231,172	62	219,282,230	60	124,187,497	-2	-3.2%	-95,094,733	-43.4%
	還付金詐欺	17	20,142,135	17	20,142,135	13	17,218,297	-4	-23.5%	-2,923,838	-14.5%
	融資保証金詐欺	7	3,175,182	7	3,175,182	7	3,385,000	0	0.0%	209,818	6.6%
	金融商品詐欺	11	64,624,498	10	59,328,388	11	74,155,548	1	10.0%	14,827,160	25.0%
	ギャンブル詐欺										
	交際あっせん詐欺	12	52,722,549	9	32,871,845	9	12,268,399			-20,603,446	-62.7%
	SNS型投資詐欺	75	1,032,023,700	56	807,658,594	80	1,038,679,641	24	42.9%	231,021,047	28.6%
	SNS型ロマンス詐欺	103	1,083,448,187	82	974,304,583	70	642,143,844	-12	-14.6%	-332,160,739	-34.1%
	その他の特殊詐欺	6	7,406,570	5	5,296,570	2	10,602,000	-3	-60.0%	5,305,430	100.2%

※下段括弧内は、被害品のキャッシュカードを使用して、犯人が払出した金額等（内数）。
※令和８年４月から、ニセ警察詐欺をオレオレ詐欺から独立した手口として位置付けたほか、ＳＮＳ型投資・ロマンス詐欺を電話でお金詐欺（特殊詐欺）の一手口と位置付け、これら全体を電話でお金詐欺（特殊詐欺）として整理しています。

【認知状況】※１万円未満切り捨て

○　10月末までの認知件数は478件（前年同期比＋110件）、被害額は33億132万円（前年同期比＋１億5,767万円）、１件当たりの被害額は690万円（前年同期比－163万円）であり、被害件数・被害額ともに増加した。
　１日当たりの被害額は1,085万円（１日当たりの被害額については304日で計算）であった。

○　10月末時点で発生が多い手口はオレオレ詐欺が102件、ニセ警察詐欺が101件、ＳＮＳ型投資詐欺が80件、ＳＮＳ型ロマンス詐欺が70件であった。

○　犯人からの接触方法は、電話が252件、ＳＮＳが179件、ウェブサイトが31件、電子メールが16件であり、接触方法が多様化している。

○　ニセ警察詐欺において、犯人が最初に詐称した身分は警察官以外が45件（44.6％）であり、内訳は通信事業者が18件、金融機関が16件、官公庁が６件、配送業者が５件で、その大半は、着信に応答すると、「２時間後に電話が使えなくなる」などと自動音声ガイダンスが流れ、案内に従って指定された番号を押すと、それぞれの身分を名のる者から「犯罪に巻き込まれている可能性がある」などと言われ、警察官を名のる者に電話が転送される手口であった。

○　ニセ警察詐欺における犯人からの接触方法は、99件（98.0％）が電話であり、犯行に利用された電話番号として判明している57件中27件（47.4％）が国際電話番号であった。
　また、連絡手段として秘匿性の高いアプリをインストールさせたり、「口座のお金を調べる」と言って資産を暗号資産に交換してから送金するよう求めるなど、犯行の発覚・追跡を困難にしている実態が覗える。

○　「口座が犯罪に利用されている」などと言って、キャッシュカードをだまし取る預貯金詐欺やキャッシュカードを準備させた上で隙をついてトランプ等とすり替えるキャッシュカード詐欺盗の増加が顕著。